

PRAEVIDENTIA DAILY (7月1日)

昨日までの世界：月末要因でポンド/ドルが炸裂

昨日は、対欧州通貨でのドル安が目立った。米経済指標はまちまちで、シカゴ製造業 PMI は 62.6 と前月および市場予想を下回った一方、中古住宅販売成約件数は前月比+6.1%と市場予想を大きく上回るなど、総じてドルに対して強い方向性を与えなかったが、ロンドン午後 4 時に為替相場が大きく動いたことから、月末に絡む機関投資家のポートフォリオ調整のフローが大きく影響した可能性が高い。ポンド/ドルは一時 1.7115 ドルへ上昇し年初来高値を更新、ユーロ/ドル相場も、ユーロ圏 6 月 HICP 速報値は前年比+0.5%と、先週金曜発表の前月から+0.4%ポイント上昇したドイツ分と違って予想比上振れしなかったが堅調を維持し、ロンドン午後 4 時にかけて一時 1.3698 ドルへ上昇した。

ドル/円は、前日と同様に東京時間朝方から特段の材料なく、日経平均と連動して下落基調となり、一時 101.24 円と下値が切り下がる展開となった。本邦鉱工業生産は前月比+0.5%と市場予想を下回り、先行きの生産予想も 6 月が-0.7%、7 月が+1.5%と芳しくなかったが、円安要因とは捉えられなかった。NY 時間入りにかけてはまちまちの米経済指標を受けて上下したものの、その後は再び日中安値近辺へ軟化するなど、上値の重い状況が続いている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	+0.01	-0.00	-0.01	-0.01	-0.00	+0.00	-0.0	+0.4	-0.3	-0.9
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.3	-0.00	-0.01	-0.00	-0.01	-0.02	-0.00	-0.1	-0.0	-0.9	+0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.4	+0.03	+0.02	-0.00	+0.03	+0.03	-0.00	-0.2	-0.0		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	+0.02	+0.02	-0.00	+0.00	-0.00	-0.00	-0.0	+0.6	-0.8	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	+0.03	+0.02	-0.00	-0.02	-0.02	-0.00	-0.0	+0.6	-0.8	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.0	+0.01	-0.00	-0.01	+0.01	-0.00	-0.01	-0.0	-0.3	-0.8	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：RBA のハト派化リスクに注意

きょうの注目通貨：AUD/USD ↓

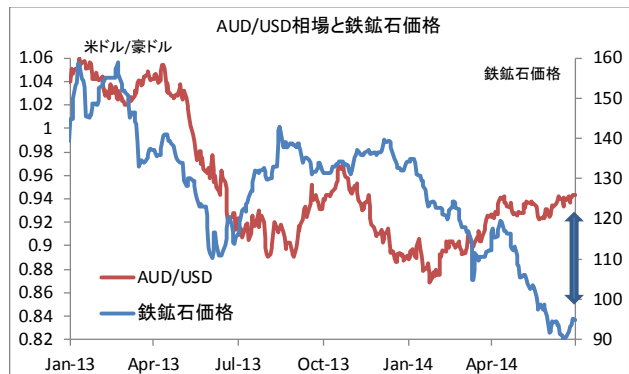
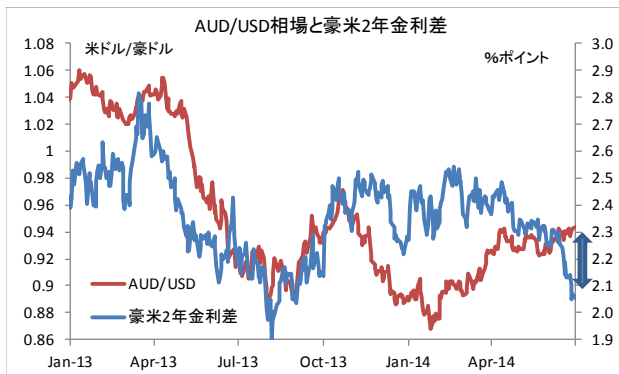
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦日銀短観・大企業製造業 DI	8 : 50	17	15	
同・大企業製造業 DI 予測		8	17	
中国 6 月製造業 PMI	10 : 00	50.8	51.0	
中国 6 月 HSBC 製造業 PMI 確報値	10 : 45	50.8	50.8	前月は 49.4
豪 RBA 金融政策決定	13 : 30	2.50%	2.50%	
英 6 月製造業 PMI	17 : 30	57.0	56.8	
BoE 金融安定政策委員会 (FPC) 決定発表	17 : 30			
米 6 月 ISM 製造業景況指数	23 : 00	55.4	55.9	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は豪ドル関連で、中国製造業 PMI と RBA 金融政策決定が注目だ。中国製造業 PMI も米国と同様に改善傾向(今回予想通りだと 4 か月連続改善)で、豪ドルの下支え要因だが、鉄鉱石価格(中国の輸入価格)は 6 月末に急落から持ち直しを見せていたが改善も一服しつつあり、豪ドル高要因としては弱い(下図を参照)。む

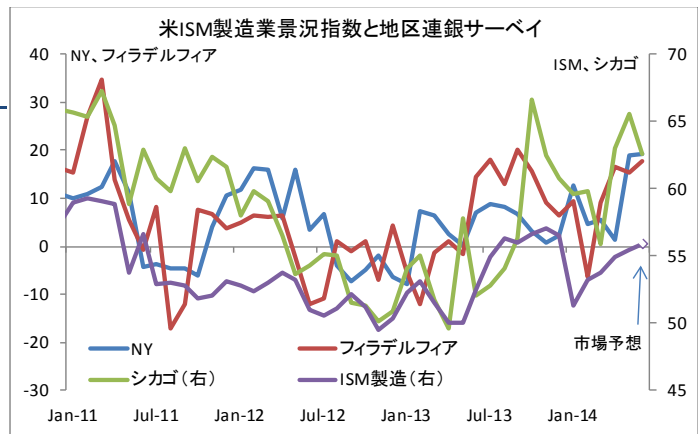
しる、前回 RBA 会合以降の豪州経済指標の悪化（貿易収支、雇用統計、ANZ 求人広告件数など）を受けて RBA 声明文がハト派化するリスクがあり、豪ドル/米ドル相場が鉄鉱石価格や豪米金利差の不利化に大きく出遅れている中、結果発表後の豪ドル安リスクに注意が必要だ（下図を参照）。

ドル/円については、短観と ISM 製造業景況指数が注目だ。短観については、今回の悪化は消費増税後の反動減で仕方ないとして、次回に向けた予測値がどの程度回復しているか、即ち企業が先行きについてどの程度楽観的かが注目される。このため、大企業製造業 DI の先行き予測であれば、市場予想の 17 を大きく上回るようだと、日銀の追加緩和期待の後退でドル売り円買い圧力となる。他方、ISM 製造業景況指数は今回も改善すれば 2 月以降 5 か月連続の改善となることから、緩やかなドル買い要因となる。このため、ドル/円は材料面では明確な方向感が出にくい、地合いは弱く、バイアスは 101 円割れ方向だ。なお、水準、変化共に ISM と最も相関が高い地域サーベイはシカゴで、昨日発表分は前月および市場予想を下回ったが、ISM はやや地区連銀サーベイのこれまでの改善に遅れている面があることから、地区連銀サーベイから見る限り、必ずしも下振れリスクは大きくなさそうだ（下図を参照）。



各地区連銀製造業サーベイの全米分 (ISM) との相関 (09年以降)

	NY	フィラ	シカゴ
水準の相関	0.77	0.85	0.87
前月比変化の相関	0.11	0.12	0.35



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641